



東京理科大学 維持会レター

第42号
vol.42 2025.7

ご住所などの変更があった場合は、下記まで必ずご連絡ください。

募金・維持会についての問い合わせ先

学校法人東京理科大学 募金事業事務室

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3
TEL 03-5228-8723 (ダイヤルイン) FAX 03-3260-4363
<e-mail>bokinjigyo@admin.tus.ac.jp
<URL><https://www.tus.ac.jp/donation/purpose/>

募金について



維持会について



理事長からのメッセージ

皆様におかれましては、日頃より本学の維持発展に多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございます。

1881年、「東京物理学講習所」として創設された本学は2031年に創立150周年を迎えます。長期ビジョンとして掲げている「TUS VISION 150」のもと、学部学科再編や教育研究力の強化等の改革にまさに取り組んでいるところです。

来年4月には、本学にとって33年ぶりの新学部である「創域情報学部」が野田キャンパスに、理学部第一部の新学科である「科学コミュニケーション学科」が神楽坂キャンパスにそれぞれ誕生します。今回の再編により、新たな学部・学科を中心とした全学的な情報系人材の育成を多面的かつ強力に推進してまいります。また、昨年策定された「TUS SciTech 構想」実現のため、本年4月には「TUS SciTech 共創推進本部」を学長直下の組織として設置いたしました。理科大ならではの独創的・分野横断的研究分野を重点的に強化することで、世界と伍する研究大学となることを目指してまいります。

近年、急速な少子化とそれに伴う18歳人口の減少や物価上昇、多発する自然災害など、大学を取り巻く環境も日々厳しさを増しています。質の高い教育研究を継続的に行うことができる環境を整備し、学生がいかなる状況においても経済的な理由で学びを断念することがないよう、手厚い支援体制を整えることは、大学としての重要な使命です。

今後も、皆様からのご期待に応えられるよう、大学・法人が一丸となって努めてまいります。我が国の未来を担うべく勉学に励む学生たちのため、より良い世界を作るべく日々研究に励む研究者たちのため、そして先人たちから受け継いだ大切な財産であるこの「東京理科大学」の発展のため、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

維持会 会長からのメッセージ

日ごろより維持会の活動にご理解とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

また、本学発展のためのご寄付、そして学生への奨学金制度に募金いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

今年は戦後80年という節目に当たりますが、終戦4年目の1949年に本学が新制学校法に基づく大学として発足した際の初代学長は、強力な永久磁石KS鋼を発明された本多光太郎博士でした。このKSという名には発明の経緯にかかわる意味が込められています。KSとは住友財閥の住友吉左衛門のイニシャルで、KS鋼発明のため高額の研究費を提供したことによります。私はこの話を本多光太郎記念財団の方から伺った時に発明者とスポンサーの一つの形の嚆矢と感じたことを記憶しています。

さて、戦後80年余り経った今、研究者と企業のつながりは益々強くなり、その成果は国運の発展、さらには世界にも貢献するものになってきています。

本学の卒業生がコツコツと地道に研究し成果を出していく今日の姿は、1881年(明治14年)に建学されて以来の本学のDNAであり、学風と言ってもよいものと思います。

この度、数学者秋山仁先生がこの学風ともいうべき本学の姿を建学者のリーダー格だった寺尾寿先生の人物像を通して明快に書きあげてくださいました。

『月桂冠は君の頭上に輝く』と名付けられたこの本はたくさんのエピソードを交えながら本学の学風のルーツに迫ります。研究者として教育者としてそして人としての生き方にも示唆に富むものがふんだんに盛り込まれています。

『月桂冠は君の頭上に輝く』というタイトルは物理学校二代目校長中村精男先生が卒業式で述べた言葉から来ています。月桂冠とは栄冠であり、晴れて卒業できる者の実力に教育者としての誇りと自信をもっており、卒業者を心から激励する意味が込められているのだと思います。

この本は理科大を理解する上で白眉のものと言えます。

どうぞお手に取ってご一読いただけると有難いです。



学校法人 東京理科大学 理事長
浜本 隆之



東京理科大学 維持会 会長
酒井 陽太

第92回 常任維持会報告

東京理科大学維持会は、東京理科大学創立者の先生方からの寄付によって財政の苦難を乗り越えた遺徳にならい、大学の維持及び発展に寄与することを目的とした組織です。

維持会は、東京理科大学維持会会則にもとづき、常任維持会を設置し運営しております。常任維持会の構成員は、栄誉会員及び特別会員のうちから10名以内を、理事長が理事会の議を経て委嘱することになっており、2025年5月現在8名の方が常任維持会員として委嘱されております。常任維持会は、年2回開催され、法人の維持及び発展に寄与する活動に関すること、維持会会員に関すること、寄付者に対する顕彰に関することなどを審議しております。

2025年5月29日に開催された第92回常任維持会について、主な点を報告いたします。



1. 維持会会員承認について

2024年10月1日から2025年3月31日の間に寄付された新規会員19名と追加寄付550件について報告があった。

2. 顕彰者について(2024年10月1日～2025年3月31日)

栄誉会員Eに2名、特別会員に4名が昇格及び入会したことの報告があった。

栄誉会員E	酒井 陽太 様	昭和49年工学部経営工学科卒
	吉本 成香 様	昭和48年工学部機械工学科卒
特別会員	福岡 卓一 様	昭和47年理学部第一部応用数学科卒
	並木 榮一 様	昭和39年理学部第一部物理学科卒
	青木 英彦 様	経営学研究科技術経営専攻 教授
	岸本 太一 様	経営学研究科技術経営専攻 講師

【常任維持会】

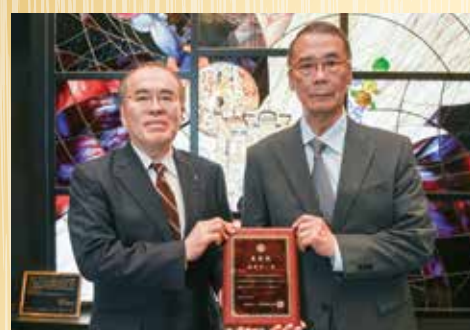
会 長	酒井 陽太				
副会長	岡本 公爾	加藤 和詳			
会 員	秋山 仁	梶原 巡	宗政 信傑	望月 圭一郎	吉本 成香

(任期: 2024年12月28日から2028年12月27日まで)



東京理科大学維持会 募金顕彰の会

募金顕彰の会(2025年5月29日開催)において、栄誉会員 B(1名)及び特別会員に昇格した方(2名)、入会した方(1名)に浜本理事長(写真左)から表彰楯を贈呈しました。昨年同様、今回も東京物理学校の木造校舎の外観を復元した近代科学資料館にて開催しました。表彰者の皆様は本学創立から140年のあゆみや歴史ある所蔵品等をご見学されました。



特別会員

福岡 卓一 様

昭和47年 理学部第一部応用数学科卒



特別会員

並木 榮一 様

昭和39年 理学部第一部物理学科卒



特別会員

岸本 太一 様

経営学研究科技術経営専攻 講師



【維持拡充資金（第二期） 寄付額】 （2024年10月1日～2025年3月31日）	
個人	52,272,417 円
団体	3,812,274 円
こうよう会	12,461,000 円
法人	428,300,000 円
合 計	496,845,691 円

【2024年度 維持拡充資金（第二期） 寄付総額】 （2024年4月1日～2025年3月31日）	
個人	82,360,917 円
団体	5,535,467 円
こうよう会	28,201,000 円
法人	430,685,357 円
合 計	546,782,741 円

..... お 知 ら せ

オリジナルグッズ贈呈

2025年1月～12月までの1年間に、1万円以上のご寄付を賜った寄付者の皆様にオリジナルグッズを贈呈します!皆様に喜んで頂ける新たな理科大グッズを考案中ですので、お楽しみに!



オープンカレッジ無料受講

2025年1月～12月までの1年間に、10万円以上のご寄付を賜った寄付者の皆様は、「東京理科大学オープンカレッジ」2026年度講座の中から1講座を無料で受講できます。(語学の講座は対象となりません)
理科大ならではの「最先端の知」、互いに学びあう「共創の場」を体験してみませんか。

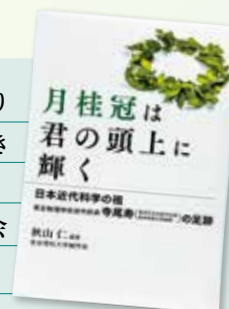
秋山仁先生
渾身の力作

『月桂冠は君の頭上に輝く』が 書籍化されました！



理科大の創設者のひとりである寺尾寿先生について、維持会会長より秋山仁先生にコラム作成の依頼をしたところ、9章にもわたる大作ができあがり、この度、『月桂冠は君の頭上に輝く』として書籍化されました。

維持会レターにおいて、全部を掲載するのは難しいですが、第1章を維持会レター42,43号でご紹介させていただきます。



第1章 実力主義と理科大のDNA

§1. かくして奇跡は起こった！

東京理科大学の前身、東京物理学講習所は、1881年(明治14年)に、確たる財源もなく、大学を出たばかりでまだ地位も名もない、平均年齢25歳の若者たち21人によって建学された世界でも稀有な理工系の大学である。この21人は東京大学の前身である開成学校(大学南校)に於いて、フランスから招聘された教授からフランス語で物理学を習得した我が国最初の物理学の学士たちであった。『東京物理学校五十年小史』には、本学が建学された経緯について次のように書かれている。



1906(明治39)年
牛込神楽坂に新築された校舎を模して建てられた近代科学資料館

『当時の学生、大学南校(江戸幕府直轄の外国語の教育と研究所を司る学問所“蕃書調所”を前身とする学問所)や明治初期の貢進生(明治3年に実施された制度で、16～20歳までの優秀な者を各藩から国に差し出させ、新しい時代を牽引する人材を育てる目的で西洋の新たな学問を学ばせた。その学生のことを指す)の気風いまだ衰えず、志を立て意気込み、好んで天下国家を談じ、自身の利害の如きはほとんど念頭に往来せず。この二十数名の学士たちは、学生時代から話し合い、志を高め、卒業の後には共同一致して国に尽すことを約束していた。当時の世の中の状況と、青年学士たちの専攻が物理学であったことから彼らの志が“理学の普及を以って国運発展の基礎とする”ことに向った

のは実に自然かつ必然なことだった。彼らは官公庁や国の高等教育機関での指導者という本業をもっていたが、慎重に協議を重ねた末、公務の余暇を以って同志たちは力を合わせて理学の学校を設立し経営と教務に当たろうということに決定した』これら二十数名がこのように強く団結したのは、彼らの多くが15、6歳の頃から同じ宿舎で同じ釜の飯を食い、寝食を共にしたことが大きかったのだろう。



「建学者21人の夢と魂」
建学の精神を象徴するステンドグラス(山口一城作、近代科学資料館)

学校設立の決定を経て、1881年6月13日の報知新聞の広告欄に、建学者たちが当時抱いていた抱負や意気込み、我が校の建学の精神が深く感じられる「学校設立の以下の趣旨の告知」が掲載された。『昨今、我が国の文明開化はめざましい。しかし、自由民権運動の高まりなどに見られるような政治学や法律学がめざましく進展しているのと比べて、理系の学問・技術の普及は押しなべて遅々として進んでいない。その理由もわからなくはない。理学は政治学や法律学のように書籍だけで真理を洞察することができない学問であり、必ずや実験や観察などを実際に行って研究しなければならないからだ。そのため、現在のところ官立大学(当時は東京大学のみ)の他には、理学を学べる学校がない。それゆえ、世の中の多くの人々が、理学がどんなに有益なものであるのかということを認識できていない。いや、それどころか、理学を他の学問よりも軽

んじる風潮すらある。このような状況を我々は切実に憂いており、公益のために学校を設立し、もっぱら実験を通して物理の諸学科をわかりやすく講義したいと考え、飯田町4丁目(現在の九段下、千代田区役所の辺り)にある稚松小学校の校舎を借りて、炎暑の終わる9月から、土日以外の平日の夕方に毎日、重力学、聴学、光学、熱学、電磁気学の講義を開講する。二科目以下は校費一ヶ月二十銭(現在の4千円相当)、三科目以上の者は四十銭(八千円)とする。』

建学者たちは学校を出たばかりであるにも拘らず、他に先駆けて理学の重要性を見抜き、理学を普及するための具体的行動を起した実行力は見上げたものである。

§2. 誰もやらない、やれない大変なこと ならば、我々が率先してやろう

当時、国の中心にいた人物の中でも、海外の事情に明るかった伊藤博文や福澤諭吉、大隈重信等は、「先進国のように近代産業を興していくためには物理学が肝心だ」という考えを持っていた。しかし、福澤の私塾・慶應、1882年に開校された大隈の東京専門学校(早稲田大学の前身)をもってしても、教える人もいなければ実験教材を揃えるのもままならなかった。すなわち、官学でも東京大学以外では実現できていないのに、ましてや私学の立場で理学を教えることに踏み切るのは極めて困難な状況だった。実際に理工学部が設置されたのは早稲田が1908年、慶應は1939年になってからのことだ。

そのような中で、「誰もやらない、やれない新しい大変なことであるのならば、我々が率先してやろうではないか」と立ち上がったのが、若き二十数名の我が校の建学者たちだった。一科目の講義を3人が交替で担当し、本業を終えた夕刻に無償で教壇に立つ。それも、学校に向かう前に、彼らの母校であった東大に高額で貴重な実験機材を借りに行き、人夫に頼まず担当者が自ら釣り台に乗せて担いで運び、授業後直ちに返却しに行った。当時のエリートなら決して行わないであろう雑務までも率先して実行し、そのうえで寸分の妥協を許さぬ授業を遂行していった。講義を担当する者

(先生)が講義に遅刻したら罰金を払い、どうしても担当の講義を行えない時は電報を打って誰か他の先生に代講を依頼し、休んだ者は代講者に翌日の昼飯代を出すという取り決めをして実践していた。

「若さの前に不可能もなければ陰影もない。それは一切を突破する力であり、一切を明るくする太陽である」という与謝野晶子の言葉があるが、まさに若き建学者たちを彷彿とさせる言葉であろう。



建学者21名(なるほど科学体験館)

続きは、維持会レター43号で掲載させていただきます。

こちらの本を購入したい方は、神楽坂キャンパス内紀伊国屋書店または本学のオリジナルグッズの制作・販売をしている TUS ONLINE STOREよりご購入いただくことが可能です。

皆様もぜひ買い求めいただき、理学を日本に根づかせ普及させた東京物理学校の歴史的役割と、それを成し遂げた建学者たちのリーダー格であった寺尾寿の見事な生き方を一読ください。

TUS ONLINE STOREは
こちらから ▶
(<https://tus-online.com/>)



冠奨学金を受給した学生からのメッセージ

2024年度に学生 111 名に対して、30,500,000 円の奨学金を給付しました。各冠奨学金を受給した学生から感謝のメッセージが寄せられましたので、皆様の暖かいご厚志に対する感謝の気持ちと、将来への志を持って懸命に勉学に励む姿をご紹介します。

本学の発展にご理解とご賛同をいただき、格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

いま大学で力を注いでいること

理学研究科物理学専攻 博士後期課程 3 年

現在、私は材料科学の研究に力を注いでおります。特に、珪藻土の表面処理による性能向上に関する研究を進めており、今期はこれまでにオープンアクセスで 2 報の論文を発表しました。この研究は、環境に優しい材料の開発に寄与することを目指しています。珪藻土は自然界に豊富に存在し、再生可能な資源であるため、その利用は持続可能な社会の実現に貢献できると考えています。今後もこの分野での研究を続け、さらなる成果を上げることを目指して努力してまいります。

創域理工学部 生命生物科学科 4 年

私は現在、哺乳類脊椎と力学的な負荷の関連に取り組んでおり、将来的には骨粗鬆症や宇宙開発における骨密度の低下といった課題に対する解決策を実現したいと考えております。

工学研究科 工業化学専攻修士 2 年

いま大学では、研究活動に力を注いでいます。「気水界面での金属置換による合金ナノシートの作製」というテーマで金属ナノ材料の金属変換について研究しています。自身の研究結果をまとめることで、学会発表や英字論文の執筆を行いました。

支援をくださった方へメッセージ

工学部 電気工学科 3 年

この度は奨学金という大変貴重なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。学費や生活面の不安を抱えておりましたが、皆様のお力添えによって、学業により一層打ち込める環境が整いました。電気工学を中心とした勉学や研究をさらに深め、将来的には社会に貢献できる人材となれるよう邁進いたします。また、日々の実験や資格取得などにも意欲的に取り組み、学内外で得た知識を活かして後輩や周囲の方々にも還元していく所存です。皆様のおかげで得られたこの機会を無駄にせず、一步一步成長してまいります。

理学部第二部 物理学科 2 年

この度はご支援してくださりありがとうございます。ご支援していただいたおかげで、学生生活に必要なパソコンや教科書の購入ができるようになり、とても感謝しております。これからもご支援していただいたことに恥じぬよう、授業に加え自身の興味ある分野の知識を吸収していき、いづれ恩返しできるようにしていきたいと考えております。

薬学部 生命創薬科学科 2 年

本奨学金を受給できたことを大変誇らしく思います。心より感謝申し上げます。これからも努力と経験を積み重ねていき、社会に求められる人材になれるよう学修に取り組んでまいります。東京理科大学の模範となる学生となれるようこれからも精進してまいりますので、これからも見守っていただけたらと存じます。重ね重ねになりますが、深く御礼申し上げます。

※都合により、一部編集して掲載しております。 ※ 2024 年度の所属・学年を掲載しています。

奨学金を受給した学生からの感謝のメッセージは、このほかにも多数寄せられており、本学ホームページでもご紹介しています。

皆様、何卒ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

メッセージページはこちら



寄付の詳細はこちら



2025年度は、「冠奨学金」が新たに5つ増えました

● 渡辺一之奨学金

● 森野義男奨学金

● 鶴田禎二奨学金

New 夢太陽奨学金

● 大澤賢一奨学金

● 細川斉子奨学金

● 深山邦武奨学金

New 服部奨学金

● 関智弘奨学金

● 鶴志会奨学金

● 深山義枝奨学金

New ADEKA奨学金

● 白井康雄奨学金

● 宗政信傑奨学金

New 機械工学科奨学金

New サードウェーブ奨学金

都道府県別維持会会員数一覧

2025年 3月 31日現在

会員種別 会員格付	栄誉会員							特別会員		終身会員		普通会員
	S A	A A	A	B	C	D	E	F	G	H	I	
北海道								1	1	2	1 6	1 9
青森											6	2
岩手							1			1	1	6
秋田										1		1
山形											1 1	3
宮城									1	3	1 2	1 5
福島												7
茨城								1	3	1	5 19	10 28
栃木								1	1	2	4	3 8
群馬										1	2	1 16
埼玉				1			2 2	3	9	6	20 42	6 16 68
千葉				1		1 1	1 4	2 1	12 4	29 9	60 27	85
東京	1		1			1 3	8 4	16 5	34 12	63 26	134 80	227
神奈川				1			4 2	2 1	9 4	16 8	54 29	116
長野								1	1 1	3	1 8	2 13
山梨										1	3	4
静岡										3	3 2	4 16
愛知	1						1	1 2	1	2	1 5	2 17
岐阜										1	2	1 3
福井							1	1		1		1 3
石川									1		2	3
富山										1	1 2	4
新潟											1 2	2 11
三重										1	2	1 4
滋賀										2		2
大阪									1 2	2	2 3	8
京都									1		3	3
奈良											3	1 2
和歌山						1					1	3
兵庫						1			1	4	2	2 8
鳥取											1	
島根												1
岡山										1	3	3 10
広島									2	2	6	1 14
山口										1	11	1 22
香川										1	4	1
徳島									1		1	3
高知					1							1
愛媛							1				1	1 2
福岡										1	1	3
佐賀												
長崎											1	1
熊本												1 2
大分											1	5
宮崎										1	1	1
鹿児島										2	1	2
沖縄											2	2
不明												1
計	0	0	1	3	1	3	16	28	78	171	403	755

赤字は物故者数